

令和4年度 第1回 沖縄県 SDGs 専門部会 Partnership(パートナーシップ)部会
議事概要

日時：2023年1月27日(金)14:00～15:30

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

倉科委員、首里のすけ委員、新膳委員、長濱委員、平田委員、平良委員

（オブザーバー）

恩納村、石垣市

（沖縄県）

SDGs 推進室 平良室長、知念主幹

（事務局）

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

定刻となりましたので、「令和4年度 沖縄県 SDGs Partnership(パートナーシップ)」専門部会」を開催させていただきます。

はじめに、配布資料の確認をいたします。本日の配布資料は、資料1 令和4年度第1回 SDGs 専門部会 会議資料、資料2 アクションプラン改定（案）、資料3 令和X年度（20XX年度）沖縄の持続可能な開発目標レポートとなっております。

なお、本日の会議につきましては、オンラインによる開催とさせて頂きました。

会議中のご発言につきましてはの注意を申し上げます。発言を希望される場合は、恐れ入りますがお名前を述べていただき、発言がある旨を発声いただくか、チャット機能を使用し、発言がある旨をお伝えいただきますようお願いいたします。あわせて、ハウリング防止のため、発言時以外はマイクをミュートにして頂けますよう、お願いいたします。音声繋がらなくなった場合などにも、チャット機能をご利用いただけますので、必要があればそちらもご活用いただければと思います。本日は、6名の委員の皆様全員ご参加いただいております。本日の議事進行は、沖縄県企画部企画調整課 SDGs 推進室平良が務めさせていただきます。平良室長よろしく申し上げます。

（進行）

今回、進行役を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。早速、議事の方に進められればと思います。事務局からポイントを絞って資料の説明をさせていただきます。

（事務局）

それでは、事務局より説明させていただきます。資料を画面共有させていただきます少々

お待ちください。

こちら資料1になります。まず資料1の1ページをお願いいたします。こちらはアクションプラン策定から今回のアクションプラン改定までの経緯を説明した資料になります。令和3年度はアクションプラン策定に向け、県民アンケート、専門部会、アドバイザーボード会議、市町村、県関係団体の意見を集約しアクションプラン案を策定しました。令和4年度にはいり、パブリックコメントを踏まえてアクションプラン決定いたしました。また、令和4年9月に「新・沖縄21世紀ビジョン実施計画」が策定されたことから、アクションプランの未設定の指標について実施計画を踏まえて整合性を取る形で再整理しました。

今回の改定箇所について資料2の「おきなわSDGsアクションプランの改定案」をご覧ください。4ページから優先課題ごとの目標、指標等のページになります。見え消し赤字の箇所が再整理した指標となっております。改定箇所をみますと作成時に令和四年度設定となっていた箇所が実施計画を踏まえ再整理した箇所となっております。21ページまで改定しております。

続いて、指標以外の改定箇所として統合的取組のモデル事業について、今回事例を2つ追加しております。資料2の28ページ～29ページが追加したモデル事業になります。統合的モデル事業は、経済、社会、環境の三側面でのそれぞれの取組が統合的な取組に繋がるというイメージを共有するため図化したものになります。今回は「イノベーションの創出と人材育成」と「持続可能な観光」を追加しております。今回のアクションプランの改定は主に新しい実施計画を踏まえたアクションプランの指標の再整理となっております。資料12ページに戻ります。参考資料として「実施計画」と「おきなわSDGsアクションプラン」の関係を整理した図をつけております。こちらは参考にみていただけたらと思います。

続きまして資料1の3ページをご覧ください。SDGs推進にかかるモニタリング・発信についてです。SDGs推進のモニタリングについては「沖縄県SDGs実施指針」で取組状況のモニタリング、進捗のフォローアップをすることとなっております。モニタリングに当たっては、専門部会、アドバイザーボード会議で意見収集を行い、沖縄県SDGs推進本部に報告することとなっております。モニタリングの方法ですが、国内外の外部環境の変化を含めた課題、具体的な取組や方向性などを含め意見収集を行う形での実施を検討しております。資料3にあります「沖縄の持続可能な開発目標レポート」はモニタリング報告書のイメージとなっております。こちらを毎年度、専門部会、アドバイザーボード会議にはかり、意見を踏まえ、推進本部に報告するスキームを検討しております。このレポートは沖縄県のホームページで公表するとともに「おきなわSDGsプラットフォーム」の会員にも共有する予定です。また、この報告書の作成は令和5年度から実施することを予定しております。今回は、モニタリングの方法について、ご意見をお伺いできればと考えております。

資料3をご覧ください。資料3はモニタリングレポートのイメージ案として作成したもののになります。SDGsのターゲットやアクションプランの内容が多岐にわたるため、各論を幅広く整理することが難しいと考えました。毎年度報告書としてとりまとめることを想定

して整理したのになっております。目次をご覧くださいますと 3 項目で構成しております。1. 世界・日本・沖縄の概況、2. SDGs の取組事例、3. アクションプランの進捗状況となっております。1 から説明いたしますと 1 の世界・日本・沖縄の概況（現状と課題）についてですが、5 P ごとに国内外、県内の情勢のトピックをまとめおります。13 ページからのパートナーシップから説明したいと思っております。コロナ感染症の拡大やウクライナ戦争などが SDGs の目標へ与えた影響は大きく、国際協力の必要性を高めていること。ODA の額は増加しているが、SDGs 目標達成にむけ、途上国の回復は難航していること。世界中でコロナの影響が大きい中で、文化業界や多様性を守る必要があること。SDGs 実現に市民社会は重要な役割を担っていること。といった内容を記載しております。14 ページは国内の動向になります。経済協力開発機構の開発援助委員会諸国における日本の ODA は 4 位となったこと。令和 3 年度文化に関する世論調査報告書によると伝統芸能を外国へ発信すべきと考える人が多いこと。紛争や気候変動などにより NGO と他セクターとの連携が不可欠になっていること。ボランティアへのハードルとして、時間・情報不足があること。をトピックとしてあげております。

15 ページは沖縄の動向になります。伝統芸能等の継承のために広い世代への発信が必要なこと。ボランティア団体は増加しているが、自主防災組織の組織率が低いなど課題があること。おきなわ SDGs パートナーが増加し普及啓発の促進が図られていること。世界のウチナーンチュ大会の参加人数は、第 6 回大会までは増加傾向にあること。などをトピックとしてあげております。

このような国内外の情勢や外部環境の変化等から、SDGs 推進にあたっての課題、具体的な取組等につながるご意見をお伺いできたらと考えております。資料 3 の 16 ページをご覧ください。2. SDGs の取組事例となっております。こちらは、実際県内で SDGs はどのように展開されているのか具体的事例をまとめた項目になります。(1)のパートナーシップに関する取組事例として、令和 4 年度にスタートしました「おきなわ SDGs プラットフォーム」、現在試験運用しております認証制度についての事例照会をしております。

19 ページからは(2)アクションプランに関する取組事例として、①県の取組事例、②企業・団体の取組事例を取り上げております。①の県の取組事例は 19 ページからフードネットワーク事業や、再生可能エネルギー等導入事業、②の企業・団体の取組事例は 23 ページから、琉球銀行さん、フードリボンさん、JICA さんなどの取組を紹介しております。こちらは「おきなわ SDGs プラットフォーム」にて県や企業、各団体が自発的に発信された内容を中心にピックアップしたのになります。各事例にはアクションプランにある優先課題とゴールを表記しております。このように多くの企業・団体様が SDGs の取組を推進しております。また、プラットフォームを活用して積極的に情報発信しております。続いて、27 ページをご覧ください。3 アクションプランの進捗状況についてです。

アクションプランでは、長期的な観点をもちつつ、地域課題の解決と SDGs の目標達成にむけたモニタリング指標としてローカル指標を設定しております。この青枠はローカル指

標の進捗状況の判定方法について説明したものになります。評価については、令和5年度から実施し、毎年度フォローアップしていく予定です。進捗状況の判定方法は①前年度と当該年度との実績値の比較②当初値と当該年度の実績値との比較③目標値に対する実績値の割合（達成度）となっております。③の目標値に対する実績値の割合については達成度が図れない指標もあるため、評価可能な目標値のみを評価していきたいと考えております。これら、①～③の評価、評価項目をもって、令和5年度から毎年モニタリングしていく方向で進めたいと考えております。28ページのこちらがローカル指標の進捗状況を表した表のイメージとなっております。

数値はすべて仮の数値となっております。①全体の状況を表しております。こちらは59のローカル指標全体の進捗について前年度からの進捗、当初値かの進捗を「進展」「維持」「後退」の評価項目の件数を表したのものになります。②は優先課題ごとの状況となっております。1から12は優先課題の番号となっており、それぞれの優先課題の進捗の状況を表してしております。

①の全体の状況、②の優先課題ごとの状況では、目標値に対する進捗状況を表記していないのは、評価できない項目があるので集計した表には記載しておりません。

29ページをご覧ください。こちらは各目標の状況となっております。こちらは優先課題ごと、目標ごと、指標ごとの進捗状況を表した表となっております。こちらは、対前年度比当初値、対目標値の進捗を表してしております。

こちらの資料では優先課題1のみの表となっておりますがこれが1から12まで、全指標の一覧が並ぶ形になります。

以上が、年次報告書として整理したレポートのイメージになります。モニタリングのあり方や、各分野の取組が広がるために、何が必要か、どうしたらいいかなどの視点でご意見をいただけたらと考えております。

続いて資料1に戻ります。資料1の4ページになります。

沖縄SDGsプラットフォーム分科会のテーマ設定について。令和5年度から、プラットフォーム内で個別のテーマを検討する分科会を設置し、具体的な取り組みの創出を展開することを予定しております。5ページの方で説明します。こちら分科会設置に係る工程表になります。令和4年度は、テーマについて、専門部会を中心にご意見をお伺いし、ご意見を集約したいと考えております。また、おきなわSDGsプラットフォームでは、アンケートを行い、企業・団体様のニーズを調査しテーマの絞り向けに向け、整理していきたいと考えています。令和5年度の初め頃に、テーマの絞り込みに向けて、専門部会やアドバイザーボードなどの有識者会議を開催する予定です。その後、テーマを決定し、分科会参加者を募集する予定です。令和5年度末ごろから、プラットフォーム内で分科会を立ち上げ、各テーマに具体的な取り組みに向け、活動していくスキームを検討しております。

テーマの設定については、専門部会の委員の皆様には、後日ご提案やご意見をいただきたいと考えております。会議後に様式を送付いたしますので、お手数おかけしましたが、ご提

案ご意見ほど、よろしくお願いいたします。以上が資料の説明になります。

(進行)

ここから意見交換、議論の時間とさせていただきたいと思います。議論に入る前に他の部会での意見のご紹介と補足説明をさせていただきます。本日の議題は三つあります。まず、議題1アクションプランの改定ですが、指標の目標値等を設定したこと、モデル事例を2つ追加するという内容となっています。指標については他の部会でもご意見いただいております。直ぐに反映できるものや関係部局と意見交換しながら検討しているものがありました。モデル事例については概ね方向性は了解いただいております。観光については地域循環、農業との連携の視点を入れたほうが良いとの意見がありました。人材育成、イノベーションについては、企業誘致だけではなく、内発型の産業育成やスタートアップのようなアプローチを追加したほうが良いとの意見がありました。ご意見いただきながら検討させていただきたいと思います。他の議事でも今からご意見を照会させていただきますが、意見交換の中で他の部会での意見への賛同とか反論などもございましたら、ぜひそのような観点でのご意見もよろしくお願いいたします。議事の2についてはモニタリングの方法になります。モニタリングは来年度から開始ですが、このような手法で、このようなイメージでというのが今回のポイントになります。モニタリングの方法論については皆さん、概ねご賛同いただいております。専門部会での各委員からの意見をまとめて、報告書を仕上げた上で、アドバイザリーボード会議に報告して、その上で県の推進本部、知事等も参加する会議ですが、そこに報告して公表していると。沖縄のSDGsの進捗状況を広く、毎年ポイントを絞って見える化していく、そういうところではご賛同いただいております。ただ章が三つあってそれぞれにご意見をいただいております。アクションプランの指標のモニタリング、指標を追いかけていく部分については、特段大きな意見はありませんでしたが、第1章の世界、日本、沖縄の動向については、沖縄の状況というのをもう少し手厚く書くべきではないかというご意見をいただいております。また、もう一つは順番を、世界から始まると世界からのアプローチになるので沖縄、日本、世界みたいな順番にして沖縄の課題や状況をもっとフォーカスしたり、まとめる論調を沖縄主導にしたほうが良いのではないかというご意見をいただいております。この辺は少し検討していきたいと考えております。

また、専門部会での議論のポイントになりますけども、特に世界情勢のテーマや話題の選び方については実は国連のレポート幅広くまとめていますが、このテーマじゃなくてもっと別の視点を入れるべきだ。例えば人間という章がありますけどその中には障害者関係の話が入っていないので。障害者雇用とかですねそういったところの大きな動きもあるので、そういうのを入れるべきじゃないかというご意見をいただきました。

このような観点を、今回、主にモニタリングの手法の議論ですが、来年度の本格実施の際には、委員の皆様からご意見をいただいて、レポートの内容を見直していくということをしていきたいというのが趣旨でございます。

そういったご意見があったというのをご紹介させていただきます。

あと資料 3 の事例紹介についても概ね SDGs の県内の取り組みが割と点と点で、いろいろ起こっているのは良いのだけれども、横でこのように共有していくというアプローチはいいのではないかという賛同の意見と、事例だけだと少し遡及する部分が弱いのもう少し工夫できないかというところで、ここは工夫できないかというところだとどまっております。我々の方も検討していきますが、アイデア等ございましたら、ぜひご意見いただければありがたいと思っております。最後に議事 3 については新しい取り組みになっています。分科会を設置するというのですが、これはプラットフォーム内で実際に、あるテーマに沿って取り組みを進めるプレーヤーが集まってチームを作っていく。そういうイメージでございます。過去、これまでの分科会の中でそういったチームが活動する時に、活動費を県が補助するのかというご意見もありましたが、基本的にチームを作って何をするか決まって、その中で、必要な部分があるかどうかというところを確認した上で始めようっていうところが議論の中の大きな方向性になってきております。こういったところもご意見いただければありがたいと思っております。このような時にまず補助金をとか、サポート資金を公的資金で用意してっていうアプローチもありますが、公的資金を活用するための取り組みになりがちだというご意見もありました。そういう意味でまず、フラットな形で、皆で実際に取り組んでいきたいと思いますというところから始めて、その先に何が必要なかというところを整理した上で、公的資金等も必要であれば検討する。そういう順番がいいのではないかという話がこれまでの議論でございます。少し長くなりましたが、これまでの議論等も少しご紹介させていただきました。ここからは各委員からご意見をいただきながら、一巡した後に、意見交換に入らせていただければと思います。私の方から五十音順にご指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。では倉科委員から、国際情勢、JICA の活動などもお話伺えればと思います。

(倉科委員)

アクションプラン改定案の指標の見直し理由や数値設定の根拠がわからないため、妥当性に関するコメントは難しいが気になった点をお伝えします。

資料 2 アクションプラン改定案の指標の目標年がそろっていない。SDGs は 2030 年为目标年なので、それ以前の例えば令和 6 年、令和 7 年为目标値としている指標について疑問があります。その後、どうするのか、維持でよいと考えているのか確認が必要。また、7 ページの No. 5 の指標は、現状値より目標値が低い。理由があるのだと思うが、表をみただけではわかりづらいです。

資料 2 の 21 ページ No. 2 指標が「国内外における沖縄ネットワークの強化を推進する取組数」に変更されているが、アクションとあっていないです。これを指標にするのであれば、アクションを変更した方がよいと考えます。

資料 3 のモニタリングについて、モニタリングの目的によると思うが、SDGs 実施指針で

は、①進捗のフォローアップを行い、改善すべき内容を検証する、②広く県民から意見を聞き取る、③目標。指標に加えアプローチの適切さを確認していくこととしており、本来的には、進捗のフォローアップだけではなく、今後の対応の検討、目標や指標、アクションの見直しをすべきであると思います。現在のレポート案には、今後の対応、見直しなどの観点が出ていないと思います。一方、県内の多様な取組を促進するというを目的に、そこに重点をおいているということであれば、この形もあるかもしれないが、レポートを誰向けに、何を目的に出すのかにもよると思います。

世界・国内・県内の情勢について、モニタリングの趣旨や目的によってボリューム感を検討したほうがいいのではないのでしょうか。量が多すぎるので世界や国内の情勢は減らしてもよいと思います。

資料3の取組事例について、プラットフォーム内の取組をとりあげているとのことであったが、若者や学校、学生が取り組んでいる取組をのせると、若者の参画が図られていいのではないのでしょうか。

分科会のテーマについては、専門部会で決めるという方向性だけでいいのでしょうか。分科会メンバーのニーズに基づき、分科会の中でテーマをきめていく方向性があってもいいのではないのでしょうか。

(進行役)

資料2の指標については、指標の根拠やわかりやすくといった意見は、他の専門部会でも意見がありました。工夫が必要だと思うので、宿題とさせていただきます。

資料3について、おっしゃるとおりで、進捗管理することも重要です。検証作業をどこまでできるか、アクションプランは策定したばかりでもあるので、今は多様な取組を促進していくことを重点に考えております。SDGsの取組が進んでいけばアプローチの方法を変えたと考えております。

資料3の取組について、他の専門部会からも意見があったので、優良事例を取材し、グッドプラクティスとして発信、紹介する方向で検討したいと考えております。

分科会についてはプラットフォームでニーズ調査を行う予定です。

(首里のすけ委員)

資料2のP19のNo.2の指標「世界のウチナーネットワーク」サイトのアクセス数となっていて、目標値が現状値の4倍くらいになっています。ウチナーンチュ大会の年はアクセス数伸びると思うし、その年のイベントによるとおもいます。継続してアクセス数を伸ばす取組が必要だと考えます。

資料2の20ページのNo.4指標にイベント来場者数とかあるが、目標値が倍近い数値となっています。イベントの来場者は周知の仕方やイベントの規模などイベントの予算と来場者は連動すると思います。目標値を目指し来場者を増やすには、継続的にできるように発

信の方法や工夫が必要だと考えます。

27ページの指標の進捗について、SDGsなので、子供でも分かるような見せ方が必要だと思えます。例えば日経新聞の業種ごとの天気予報はとても分かりやすい。ビジュアル的にもみなさんに伝わりやすい方法が必要だと考えます。

(進行)

ビジュアル的に見やすく伝わりやすくというのは各委員からのご意見がありますので、見直しも含めて議論して、工夫していきたいと思えます。情報発信も伝わりやすいよう、改善して行きたいと思えます。

(新膳委員)

資料2アクションプラン、指標の根拠を分かりやすくしてほしいです。読み解くのが難しい。再生可能エネルギーの箇所は、挑戦的な目標と記載されているのがよいと感じました。

資料2のモニタリングについて、対象が誰かがわかりにくいと感じました。沖縄NGOセンターでは出前講座を行っているが、このような世界や国内、県内のSDGsの状況がわかる報告書を出前講座で使えるのではないかと感じました。学校の先生の教材にもなり得ます。進捗状況も「数字で見る沖縄のSDGs」とかキャッチーなタイトルにするなど、小学生でもみてもわかるようにしたら報告書も幅広く活用されるのではないかと感じます。また、多様な人々との共生を目指すのであれば、同じ目標を目指すという意味で、多言語表記や、ルビをふるなど多くの方が活用できるようにしたほうがよいと思えます。

プラットフォーム分科会について、沖縄NGOセンターはJICA沖縄が設置しているおきなわ国際協力プラットフォームの多文化共生の分科会に参加しているが、企業と連携するためには話し合いを重ねるなどの時間が必要だと思えます。分科会の工程について期間が短いと感じました。

(進行)

ルビをうつなど、誰もがわかりやすく、伝わりやすくというのは工夫していきたいと思えます。

(長濱委員)

資料2について、なぜこの指標なのかがわかりにくいです。根拠をわかりやすくしてほしいです。指標、目標年をどこにしているかってことをどこかに記載したらよいのではないかと感じます。

アクションプランをみても誰が何をするのがわかりにくい。企業・団体、自治体と一緒に取り組みましょうがそもそもなので、タイトルの最初、アクションプラン初めの頁にでも各団体が何をするといったことが理解できるようにわかりやすく表記する必要があるのでは

はないかと思います。導入部分にあれば、企業も一般の人もこれで繋がるということがわかると思います。

民生委員の方のお話や公民館の仕事をしていても人とのつながりが希薄になってきていると感じます。表紙なり、初めの頁なりに、人とのつながり、パートナーシップが大事というのがわかるような図や絵みたいなイメージしやすいものが必要ではないかと思います。

(進行)

委員のお話をきいてレポートの最初のところに導入で説明が必要だと感じました。出典は、工夫させて下さい。

(平良委員)

資料1の1ページ、県民アンケートの実施で1,686件回答とあるが、アクションプランの改訂に向けた県民の意見の聴取数として十分かが疑問です。SDGsを「自分事」として意識してもらうということも取組を行う目的の一つだと思うので、多くの県民にアンケートの意図が伝わるような工夫を検討していただきたいです。

資料2の13ページ、No.3の指標、公共交通利用者数について、現状値28,721千人で目標値69,000千人となっており、倍以上の数値目標となっています。どのような根拠で数値目標をだしているのかを分かりやすくしてほしいです。また、公共交通利用者数を増やすには何らかのアクションや支援が必要になると思うので、実現に向けたアクションのところに記載をしてはどうかと思います。

資料2の16ページ、配偶者暴力相談件数について、現状値2,092件、目標値2,550件と相談件数が多くなっています。一般的に見た場合には、暴力相談件数が増えると暴力件数自体が増えているような印象を受けます。インシデントの場合は、小さなインシデントもどんどん報告できるような体制を構築して、それを踏まえて改善につなげる方がいいと言われていると思います。同じような意図で暴力相談件数についても数を増やしていると思うが分かりやすくするために、誰でも相談できるような相談体制を構築した上で、相談件数が増えることが改善につながるというような説明もあった方がいいのではないかと思います。

資料2の20ページ、No.4の指標の目標値の単位がないです。

資料2の28ページの統合的モデル事業について、左下に大学等との連携とあるが、リカレント教育についてのみ記載されております。昨今はリスクリングが重要視されており、政府が掲げる「学び直し」の政策には、どちらかといえばリスクリングに重点を置いていると思われる。県の取り組みとしてリスクリングを入れてある方が、例えば概算要求や補助金などを取りにいくときのエビデンスとしても使えるのではないのでしょうか。

資料3のレポートについて、文章のみでは分かりにくいいため、レポートの概要版を作成するなど、イラストなどもいれながら、誰がみても分かりやすいようにまとめてもいいのではないのでしょうか。

(進行)

リスクリングは重要だと考えています。モデル事業にのりよう検討したいです。

(平田委員)

伝統文化の海外への普及、進出が進んでいる。文化を世界に発信することは重要です。文化について考える事はアイデンティティ探求にもつながる。ウクライナの戦禍や、コロナ禍の現状から多くの県民が自分たちのアイデンティティに興味を持ってきているのではと感じます。

去る、1月25日にコロンビアから研修で来沖中の方々と、僕が手掛ける舞台のメンバーとの交流会が開かれました。僕が演出する「現代版組踊 鬼鷲(うにわし)」という舞台には、全県から参加する子ども達に加え児童養護施設や、障がいを抱えた子ども達も普通の稽古から多く参加しています。その中でも、南部の児童養護施設の子どもたちは10名ほどがグループで入っています。また中部の美咲特別支援学校の子どもたちも多く参加しています。最近、意識に変化がみられるのは親の方の意識の変化です。「自分の子どもが入ったら迷惑をかけるのではないかと、実は親御さんが周囲に遠慮することから、それが新しい挑戦への壁となっています。参加者の保護者で結成する「親鷲の会」というのがあり、そんな親同士の交流を深めお互いに相互扶助の重要性を訴えています。(障害等がある)子どもが参加しても大丈夫なのだということを伝えて「誰一人取り残さない精神」が脈々と顕在化しています。その現場に、コロンビアから視察に来た皆さんが感銘を受け、そのことを感想として伝えたところ、参加している子どもや親たちも同じく感度したと言う話を伺い大切なことを目の当りにした気がしました。

この度、沖縄県ユネスコ協会が取り組んでいる「SDGs パスポート」のアンバサダーに就任しました。実は今、三線を作るための木「黒木(くるち)」を毎年植えて育てる取組(「くるちの杜100年プロジェクト in 読谷」)の事務局をしています。勿論、僕も無償だがそこに参加している方々もボランティアで参加しているのだが、その際、活動するとポイントたまる「SDGs パスポート」を推奨する広報大使的な役割を担うアンバサダーに就任しました。1時間以上1ポランで換算し、30ポランたまると「日本ユネスコ協会」の本部から認定証がもらえるしくみです。小学校の時のラジオ体操のスタンプカードのイメージで、モチベーションにつながるし、自分たちの活動の見える化につながり、よい取り組みではないかと考えております。参考にしてみてもどうでしょうか。

(進行)

ご意見に感謝いたします。活動の見える化は非常に重要だと考えております。

委員の皆様からご意見一巡しましたので、ここからは自由な意見交換としたいです。首里のすけさん、先ほど尺を短くしていただいたので、どうですか。

【意見交換】

(首里のすけ委員)

イベント動画について、動画は1本100万くらい予算がかかり、イベントがおわったら継続して動画を見ることはないです。認知度をあげるためにも継続性が大事で、今、公務員ユーチューバーがバズっているが、例えば「沖縄空手ユーチューバー」ですとか、「うちなーぐちユーチューバー」とか持続的に効果的に継続してPRできるコンテンツが必要だと思います。県にとっての財産ではないでしょうか。

(進行)

継続的な広報は大事だと思います。首里のすけさんの仕事の邪魔しない範囲でがんばりたいです。

(倉科委員)

プラットフォームは団体・企業を想定しているのでしょうか。学校やクラブ活動単位で参加できるのでしょうか。子供の活動をプラットフォームで発信していくと、子どもたちの活動に企業が賛同して入っていくことができるのではないのでしょうか。企業とつなげてはどうでしょうか。

プラットフォームを見たが、敷居が高い印象です。子供がみやすい、使いやすいようにしてはいかがでしょうか。

(進行)

プラットフォームはクラブ活動などの任意団体、個人も参加できます。

教育庁とも協力して参画を促進するよう検討したいです。

(長濱委員)

プラットフォーム見たが、職場ではひらけず家で開いてみました。学校で見ることができるとはでしょうか。学校や子供が見られるように工夫が必要だと思います。敷居が高い印象もあります。若者はスムーズなのかもしれないが、私はいくつか進まないみたいものがみられなくて難しかったです。プラットフォームのHPに工夫が必要なのかと思いました。

(進行)

貴重なご意見に感謝します。プラットフォームは今年度立ちあげたところで、皆さまのご意見をきいて、プラットフォームの見せ方についても検討したいと思います。他には、言い足りないとかございませんか。ないようですので、オブザーバー参加している恩納村さん、石垣市さん、準備はいいでしょうか。一言ずつお願いします。まずは、恩納村さん。富着さ

どうぞ。

(恩納村)

はい。富着です。みなさん、いろいろなお話伺えて大変参考になりました。今度恩納村で、産業祭りのイベントがあるんですけども、そこに首里のすけさんもいらっしゃるので、又よろしくをお願いします。

(進行)

ありがとうございます。では、石垣市さんは。

(石垣市)

はい。みなさんの貴重なご意見をきかせていただいて、大変勉強になりました。石垣市の添石と申します。先ほど、出前講座のお話ありましたが、私の方も出前講座をさせていただいておりますが、高校生などに世界情勢から入ると難しいので、身近な沖縄県の情勢から分かり易くレポート作成いただいたら嬉しいです。宜しくをお願いします。

(進行)

では、議事はこれで終了させていただきます。足りない部分、何かお気づきの点あるかと思えます。この後、事務局から様式を送らせていただきますので、様式にご意見、追加ご意見お寄せいただければと思います。加えて分科会のテーマのご提案というのも別途の様式で送らせていただきます。こちらもお協力よろしくお願いします。最後に事務局から事務連絡がございますのでそちらを共有させていただいて会議終了とさせていただきます。事務局から事務連絡をお願いします。

(事務局)

はい。事務局から事務連絡です。本日の会議につきましては事務局にて議事概要をまとめますので委員の皆様にご確認した後、会議資料として県がホームページに掲載する予定です。また専門部会の任期が今月末までとなっております。委員の皆様には引き続き当専門部会の委員にご就任いただき、ご意見を賜りたいと存じます。後日、更新の依頼のご案内をさせていただきますのでこちらもお検討のほどよろしくお願いいたします。以上です。

(進行)

ぜひ引き続き委員のご就任にご承諾いただければと思っております。ただ、ご都合もありますのでちょっとご事情がありましたら、事務局の方にお寄せください。本日はありがとうございました。他の部会から次回はリアル開催にしてくれっていうご意見もあったりします。

ちょっとそこの来年度工夫させていただきますので引き続きよろしくお願ひします。これをもちまして専門部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。